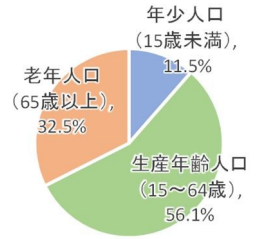


| | 世帯数 | 人 口 | 年齢別人口 |
|---------|--------|-------|------------------------|
| 現 在 | 213 世帯 | 552 人 | 15 歳未満 (年少人口) 65 人 |
| | | | 15～64 歳 (生産年齢人口) 318 人 |
| | | | 65 歳以上 (老年人口) 184 人 |
| 約 50 年前 | 149 世帯 | 632 人 | |



古代律令制では播磨国神前郡多駝里、中世は蔭山荘に含まれたと考えられます。永享11年(1439)2月に書かれた九条家の文書に「蔭山庄内八千草村并無足田」とあります。この「無足田」は、生産性の低い新しい開墾地で、年貢が除外される田であり、これが現在の余田にあたると考えられています。

建武3年(1336)、赤松氏に仕えた後藤基明が春日山城(鍛冶屋区)を築くと、その鬼門除として大歳神社を建立しました。また、永正7年(1510)に春日山城主の後藤基次の帰依により、嶺雲寺が菩提寺になったと伝わります。

近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となりました。寛延3年(1750)の余田村明細帳によると、家数は58軒・人数は292人でした。年代は不詳ですが、元萩藩士で新たに姫路藩に召抱えられた玉木十郎兵衛が八千種荘に派遣され、住吉山の麓に居を構えて農事の指導や土木事業に貢献したことが伝わり、宮の池・アリマタ池などはその尽力によるもので、平田川を西へ移して洪水の害を防いだとも伝わります。



※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | |
|------------|-----------------|----------------|---|-----------|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| 建築物 | 1 大歳神社本殿 | 享保 20 年 (1735) | 享保 20 年 (1735) 再建 (本殿再興棟札による)。柿葺き神明造り。 | | | | ● | | |
| | 2 大歳神社拝殿 | 文政 5 年 (1822) | 文政 5 年 (1822) 再建 (拝殿再建棟札による)。 | | | | ● | | |
| 建造物 石造物 | 3 阿弥陀如来立像 (嶺雲寺) | 文化 10 年 (1813) | 阿弥陀如来の石仏。台座正面には「善光寺講中」、左には「女念仏講中」と記されている。 | | | | ● | | |
| | 4 写経塔 (嶺雲寺) | 弘化 3 年 (1846) | 正面には「銘曰 八葉芬陀利妙実 □諧大聖本懐芳 豈性六万余書石利々塵々咸放光 洞獄和尚題」、右に造立年月等が記されている。 | | | | ● | | |
| | 5 石鳥居 (大歳神社) | 嘉永 2 年 (1849) | 石鳥居。右柱正面には造立年月日、左柱正面には願主が記されている。 | | | | ● | | |
| | 6 石灯籠 (大歳神社) | 安永 3 年 (1774) | 左右一対の石灯籠。左右とも正面には「御神灯」、各側面にそれぞれ造立年月日と願主が記されている。天照皇大神宮前に位置する。 | | | | ● | | |
| | 7 石灯籠 (大歳神社) | 天保 11 年 (1840) | 石灯籠。正面には「御神灯」、右に造立年月日、左に願主が記されている。 | | | | ● | | |
| | 8 石灯籠 (大歳神社) | 慶応元年 (1865) | 石灯籠。正面には「御神灯」、右に造立年月、左に願主が記されている。 | | | | ● | | |
| | 9 石灯籠 (大歳神社) | 明治 13 年 (1880) | 左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、各側面にそれぞれ造立年月日と願主が記され、基壇の正面には周施人が記されている。 | | | | ● | | |
| | 10 石灯籠 (大歳神社) | 明治 35 年 (1902) | 石灯籠。正面には、「金」の字を丸で囲んだものと「献灯」、右に造立年月が記されている。金比羅宮前に位置する。 | | | | ● | | |
| | 11 石灯籠 (大歳神社) | 明治 41 年 (1908) | 左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、台石に献納出征者・建設当時の現役兵の名が記され、右灯籠の背面には由来等、左灯籠の背面には造立年が記されている。 | | | | ● | | |
| | 12 石灯籠 (大森大明神) | 不明 | 石灯籠。 | | | | ● | | |
| | 13 手水石 (大歳神社) | 享和 3 年 (1803) | 手水石。正面に「水盥」、背面に造立年月日・施主が記されている。 | | | | ● | | |
| | 14 手水石 (嶺雲寺) | 天保 6 年 (1835) | 手水石。正面に「盥水」、右に造立年月等、左に施主等が記されている。 | | | | ● | | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | | |
|------------|----------|----------------|---------------------------|---|---|---|---|---|---|--|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 建造物 石造物 | 15 | 狛犬（大歳神社） | 天明4年 (1784) | 石造狛犬。町内の奉納年号が読める最も古い石造狛犬。他の神社の狛犬よりも彫が浅く、尾は本体に線彫した形に近い。また、阿形と吽形の置かれている位置が他の神社と左右反対である。 | | | | ● | | |
| | 16 | 石段標（大歳神社） | 明治25年 (1892) | 左右一対の石段標。右柱右に造立年月、左に「施主 松岡栄三郎」と記されている。 | | | | ● | | |
| | 17 | 石段標（大歳神社） | 明治20年代 | 左右一対の石段標。右柱正面に造立年月、右に発起人、左柱正面に「奉納」、左に発起人が記されている。 | | | | ● | | |
| | 18 | 石段標（大歳神社） | 大正9年 (1920) | 左右一対の石段標。左右の柱の側面にそれぞれ寄付者3名の名と造立年月等が記されている。 | | | | ● | | |
| | 19 | 石室（余田新田） | 大正4年 (1915) | 石室。正面に「大正四年卯二月十日南大貫村 内藤兼蔵建立」と記されている。 | | | | ● | | |
| | 20 | 石祠（円覚寺） | 元禄13年 (1700) | 石祠。正面に「願主余田邑住人 □□石□ 元禄十三庚辰年十月吉日」、左に「□□□内 当来下生弥勒尊之石仏」と記されている。 | | | | ● | | |
| | 21 | 石橋（大歳神社） | 大正9年 (1920) | 石橋。右勾欄石に「千歳橋」、左勾欄石に造立年月が記されている。 | | | | ● | | |
| | 22 | 道標（余田新田路傍） | 不明 | 道標。正面には地藏坐像の像容とともに「右 いくの 左ひめじ」と記されている。 | | | | ● | ● | |
| | 23 | 道標（余田路傍） | 不明 | 法華道の道標。地藏坐像。光背型。正面には像容とともに「右 法花山 左北条」と記されている。 | | | | ● | ● | |
| | 24 | 道標（余田路傍） | 不明 | 道標。正面には地藏坐像の像容とともに「右 つじかわ 左 みどぐち」と記されている。 | | | | ● | ● | |
| | 25 | 道標（余田路傍） | 不明 | 道標。正面には像容とともに「右□□□ 左□□□」と記されている。 | | | | ● | ● | |
| | 26 | 道標（字馬瀬口） | 不明 | 加西市吸谷越え古道の道標。正面には地藏坐像の像容とともに「右 吸谷」と記されている。新池の北にも道標があり、かつて吸谷道の往来が盛んであったことを示している。 | | | | ● | ● | |
| 27 | 葷酒石（嶺雲寺） | 天保6年 (1835) | 葷酒石。正面には「不許葷酒入山門」と記されている。 | | | | ● | | | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | | |
|------------|------------|-------------------|--|--|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 建造物 石造物 | 28 | 墓碑（嶺雲寺墓地） | 明暦3年か（1657） | 墓碑。正面には「帰真 霊位」の文字と造立年・施主等が記されている。 | | | | ● | | |
| | 29 | 墓碑（嶺雲寺墓地） | 元禄6年（1693） | 墓碑。正面には梵字と「奉供養妙法蓮華経一千部為□妙□菩提也」の文字が記されている。 | | | | ● | | |
| | 30 | 墓碑（嶺雲寺墓地） | 元禄8年（1695） | 墓碑。正面には梵字と「奉供養妙法蓮華経一千部為逆修普ト 栄天信士菩提也」の文字が記されている。 | | | | ● | | |
| | 31 | 墓碑（嶺雲寺墓地） | 元禄12年（1699） | 墓碑。正面には造立年月日とともに「○三界万霊有縁無縁十万平等利益」などの文字が記されている。 | | | | ● | | |
| | 32 | 角柱型の石造遺品（余田新田） | 嘉永元年（1848） | 正面には「十九番 たちゑ寺 いかせて西の すまいのわがたちへぐぜいのふねに のりていたらむ」と記されている。 | | | | ● | | |
| | 33 | 境内整備記念碑（大歳神社） | 大正7～10年（1918～1921） | 大正7～10年（1918～1921）に行われた参道の整備（石柱門・千歳橋・石段等の整備）の記念碑。大正7年（1918）に改めて郷社格を与えられたことに喜び、整備が行われたと考えられる。台座には整備のために寄付をした人の名が刻まれている。 | | | | ● | | |
| | 34 | 戦没者慰霊塔 | 昭和42年（1968） | 戦没者慰霊のための石塔。 | | | | | | ● |
| | 35 | 駒つなぎ石 | — | 玉木十郎兵衛が馬をつないでいたと伝わる石。 | | ● | | | | |
| | 36 | 鳥居残欠（大歳神社） | 1330年頃 | 鎌倉時代終わりの1330年頃に設置、春日山城主後藤基明寄進と伝えられる石の大鳥居の残欠。嶺雲寺境内にあったが、本堂改築の際に撤去されて、大歳神社境内にある。 | | | | ● | | |
| | 37 | 旗・神輿・幕寄進記念碑（大歳神社） | 大正7年（1918） | 旗・神輿・幕の寄進を記した碑。 | | | | ● | | |
| 38 | 狛犬頭部（大歳神社） | 不明 | 年代不詳であるが、かなり古いと思われる狛犬の頭部。境内西の森の中に位置する。 | | | | ● | | | |
| 39 | 石祠笠石（大歳神社） | 不明 | 境内西の森の中に位置する。普光谷池東の小字シメカマイにあったという愛宕社の石祠の一部とも考えられる。 | | | | ● | | | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | | |
|-------------|------------|---------------|----------------------------|---|---|---|---|---|---|--|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 美術工芸品 絵画 | 40 | 中国故事題材図(大歳神社) | 享和元年(1801) | 奉納者は「八千種村氏子中」とある。120×193.5 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 41 | 川中島合戦図(大歳神社) | 享和2年(1802) | 奉納者は不明。105×165 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 42 | 布袋図(大歳神社) | 文化2年(1805) | 奉納者は不明。134×194 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 43 | 中国武將図(大歳神社) | 天保5年(1834) | 奉納者は「当所6名」とある。85×99 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 44 | 俳諧額(大歳神社) | 嘉永4年(1851) | 奉納者は不明。74×192 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 45 | 三十六歌仙図(大歳神社) | 安政4年(1857) | 奉納者は「願主 筆屋仲間□連中」とある。1人1面26面現存。40.5×28 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 46 | 題材不明図(大歳神社) | 大正15年(1926) | 奉納者は「姫路市東二階町5番地 青田今次郎」とある。青田呉服店。60.5×91 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 47 | 神馬図(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。破損している。47.5×16 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 48 | 題材不明図(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。2面。剥落している。 | ● | | | ● | | |
| | 49 | 十二支図(戌)(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。破損している。49×15 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 50 | 鼠と俵図(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。 | ● | | | ● | | |
| | 51 | 一字額(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。119.5×199.5 cm。 | ● | | | ● | | |
| | 52 | 羽子板絵馬(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。計5枚。 | ● | | | ● | | |
| | 53 | 破魔弓絵馬(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。計2枚。 | ● | | | ● | | |
| | 54 | 破魔弓絵馬(大歳神社) | 不明 | 奉納者は不明。計2枚。 | ● | | | ● | | |
| 55 | 発句集額(大歳神社) | 嘉永4年(1851) | 奉納者は「清記庄村辰穰」とある。74×192 cm。 | ● | | | ● | | | |
| 彫刻 | 56 | 神像(大歳神社) | 不明 | 大年大神、伊邪那岐命、伊邪那美命、仲哀天皇、神功皇后の塑像5体。 | | | | ● | | |
| | 57 | 阿弥陀如来立像 | 不明 | 寛政4年(1792)の余田の大火で焼け出された円覚寺の元本尊。余田村明細帳には「御長貳尺五寸」とある。 | | | | ● | | |
| | 58 | 阿弥陀如来坐像 | 不明 | 寛延3年(1750)の余田村明細帳に「阿弥陀堂」(場所不明)の本尊、「御長壹尺貳寸」とある。現在は円覚寺に安置されている。 | | | | ● | | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | | | |
|----------|----------------|----|-----------------|---------------|--|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| 美術工芸品 | 工芸品 | 59 | 神刀（大歳神社） | 天正 11 年（1583） | 資料には天正 11 年（1583）の備前長船とある神刀。 | | | | | ● | |
| | | 60 | 神鏡（大歳神社） | 大正 4 年（1915） | 「大正四年十一月 聖壽萬歳大典奉祝記念 八千種村 山田村」とある。 | | | | | ● | |
| | 書跡・典籍・古文書・歴史資料 | 61 | 余田区有文書 | — | 10 件、10 点。特に、大きな村絵図 2 枚（明治 13 年：299×194 cm、291×190 cm）、村絵図の冊子（字ごとの絵図）がある。 | | | ● | | | |
| | | 62 | 大歳神社弊殿拝殿屋根替竣工棟札 | 昭和 29 年（1954） | 大歳神社蔵。大歳神社の棟札。総高 121.2×上 22.2 下 22.3 cm、厚さ 1.8 cm。 | | | | | ● | |
| | | 63 | 金刀比羅宮棟札 | 不明 | 60.8×11.9×1.9 cm。 | | | | | ● | |
| 有形の民俗文化財 | 祭具 | 64 | 屋台（余田区） | — | 布団屋根型屋台。八千種地区一の高さを誇る。10 年前に幕を新調。図柄は「安芸の宮島」をモチーフに、地元の大歳神社に古くから伝わる浄舞の天狗となっている。 | | | | | ● | ● |
| | その他の有形の民俗文化財 | 65 | 力石 | 不明 | 1 個。45×38×28 cm。切付無し。 | | | | | ● | |
| 無形の民俗文化財 | 年中行事・民俗芸能 | 66 | 秋祭り（八千種） | — | 八千種地区の余田・庄・鍛冶屋・小倉の屋台 4 台（いずれも布団屋根型）・神輿 1 台が大歳神社に集まる（近年は担ぎ手不足のため小倉屋台は不参加）。本宮では、屋台が宮入りし、境内での屋台練りの後、浄舞が舞われて神輿渡御が行われる。神輿に続いて屋台も宮出を行い、神社前の池畔の御旅所前で神事後、再度浄舞が舞われる。神輿の還御が行われ、再び屋台が宮入りし、境内で練り合せを行い、各地区代表による手締めの後、宮出となる。 | | | | ● | ● | ● |
| | | 67 | 浄舞（大歳神社） | — | 通常 3 度舞い、絵馬殿で一度、神社南方宮ノ池の傍らにある御旅所で一度舞い、屋台の宮入り後にもう一度絵馬殿前で舞う。熊野神社の浄舞と特に異なるのは、舞いの途中で獅子が共に舞う点である。 【町指定無形民俗文化財】 | | | | | ● | |
| | | 68 | トンド祭 | — | 1 月に各隣保で行われる。 | | | | | ● | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | | | |
|----------|---------------|----|------------|-----------|--|---|---|---|---|--|--|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| 無形の民俗文化財 | 年中行事・民俗芸能 | 69 | 初午 | — | 2月最初の午の日に行われる。子ども相撲が行われ、「花ずもう」と呼ばれ親しまれている。 | | | | ● | | |
| | | 70 | 盆祭り | — | 8月に地蔵公園で行われる。 | | | | ● | | |
| | | 71 | 夏まつり | — | 7月に行われる。 | | | | ● | | |
| | | 72 | 地蔵盆 | — | 8月に地蔵公園で行われる。 | | | | ● | | |
| 遺跡 | 古墳・その他の墓 | 73 | 住吉山古墳 | 古墳時代 | 古墳時代の円墳。石室は竪穴式と思われるが、現在は確認できない。 | | ● | | | | |
| | | 74 | 大谷古墳 | 古墳時代 | 古墳時代の円墳。 | | ● | | | | |
| | | 75 | 奥ノ向遺跡 | 古墳時代 | 余田区の山の傾斜に位置する。合計4基の石棺があり、3号棺からは石枕と腕につけられていたと思われる管玉が見つかった。また、1号棺と2号棺からは人骨が見つかった。この墓には墳丘が確認されていないが、古墳時代の墓と考えられる。 | | ● | | | | |
| | 散布地・集落跡・生産遺跡等 | 76 | 八千種庄宮ノ池沢遺跡 | 奈良時代 | 奈良時代の集落遺跡。 | | ● | | | | |
| | | 77 | 八千種余田大谷遺跡 | 奈良時代 | 平成18年(2006)の小学校体育館建設に伴う調査では溝状遺構が確認され、須恵器の蓋杯と土師器の甕が出土し、奈良時代の遺跡であることが分かった。 | | ● | | | | |
| | その他の遺跡 | 78 | 弥勒堂跡地 | — | 寛延3年(1750)の余田村明細帳に記載がある。字弥勒はその堂に由来する。明治期に余田の円覚寺に移されたようで、円覚寺の本堂の西に石祠が安置されている。正面の石扉の文字は「願主 余田村住人 南無弥勒 普口之石口 元禄十二己卯年(1699)十二月吉日」と読める。 | | | | ● | | |
| 名勝地 | 山岳 | 79 | 住吉山 | — | 八千種小学校の北東、高倉山から西に延びる尾根に位置する標高200.3mの低山。尾根上を自然歩道が整備されて高倉山に通じている。 | | ● | | | | |
| | | 80 | 八千種山 | — | 町域の東に位置する標高257.2mの低山。尾根上の自然歩道で西の住吉山とつながっている。山頂からは北方の七種山などを望むことができる。 | | ● | | | | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

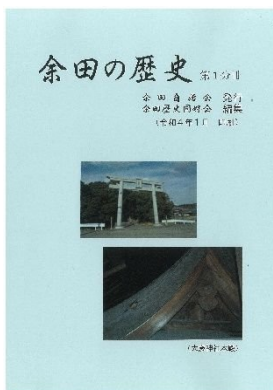
| 分類 | 名称 | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------------|-----------|------------|------------|---|---|--|---|---|--|--|---|--|---|---|--|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | | | | | | |
| 名勝地 | 山岳 | 81 | 行者山 | — | 石灰岩の岩が点在しており、石祠や石仏が祀られている。石祠には鏡が納められ、役行者像や不動明王も祀られている。神崎郡の他地区からも参る人があったといい、かつては行者が集まって護摩焚き法要が営まれていた。 | | | | | | | ● | | ● | | |
| | | 動物・植物・地質鉱 | 植物 | 82 | クロガネモチ | — | 福崎町内最大のクロガネモチで樹高13m、目通り幹周りは2m31cmをはかる。 【町指定天然記念物】 【町指定保存樹】 | | | | | | | ● | | |
| 83 | 大歳神社の森 | | | — | 大歳神社の社叢。 【町指定保存樹】 | | | | | | | ● | | ● | | |
| 文化的景観 | 生活・生業・風土により形成された景観地 | 84 | ミろく池 | 正徳5年(1715) | 江戸時代、宮の池の新田開発の代わりに庄村の田畑の用水源として造られたため池。余田の新池のこと。みろくの名は、近くにあった弥勒堂に由来する。 | | | | | | | | | ● | | |
| | | 85 | 苺又池 | 江戸時代 | 『神崎郡誌』によると江戸時代の築造とされるが、『庄村明細帳』には築造年数不明とあり、もっと以前に遡る可能性がある。堤高5.9m、堤延長170m、貯水量19,300m ³ のため池。受益面積(単独)は1.4ha。昭和54~57年度に全面改修。管理団体は庄区。 | | | | | | | | | ● | | |
| その他 | 信仰の場 | 86 | 大歳神社 | — | 八千種地区(旧八千種村区域)の郷社で、春日山城主・後藤基明に厚く祀られていた。 | | | | | | | | | | ● | |
| | | 87 | 円覚寺 | 寛永3年(1626) | 寛永3年(1626)佐治源太夫が開基した浄土真宗の寺。境内にはヤマモモや菩提樹の木がある。宗教家として有名な佐治實然の出身寺でもある。 | | | | | | | | | | ● | |
| | | 88 | 嶺雲寺 | — | 春日山城主の後藤基阿が城の鬼門よけとして建立した禅宗の寺。 | | | | | | | | | | ● | |
| | | 89 | 八王子社(大歳神社) | — | 大歳神社の境内社。境内西の森の中に位置する。天照大神と素戔鳴尊が誓約をかわしたときに現れた五男三女の神を祀る。 | | | | | | | | | | ● | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

| 分類 | 名称 | | 年代 | 概要 | 歴史文化ものがたり | | | | | |
|------------------------|----|--------------|----|---|-----------|---|---|---|---|---|
| | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| 信仰の場 | 90 | 天照皇大神宮（大歳神社） | — | 大歳神社の境内社。神殿前右手に位置する。伊勢神宮内宮の分社。天照皇大神を祀る。 | | | | ● | | |
| | 91 | 金比羅宮（大歳神社） | — | 大歳神社の境内社。神殿前左手に位置する。薬師十二神将の一つで、金比羅大将を祀る。香川県琴平の金比羅大権現の分社。航海の安全・家内繁盛を願って建立か。 | | | | ● | | |
| その他 民間説話・地名・伝承地・屋号等 | 92 | 蓮池新田 | — | 保延7年(1141)鳥羽院庁下文案(福崎町史)によると、「田原荘」の東の境は「東限蓮華池」とあり、大きな沼地があり、そこから流れ出た平田川が下流を潤していたと考えられる。その後干拓され、江戸時代の初めには「蓮池新田」となっていたと思われる。西光寺・余田・南大貫には、蓮池新田、蓮ノ池、蓮池新の字がある。 | | ● | | | | |
| | 93 | 玉の井 | — | かつて幽かな湧水地で、地誌『播磨鑑』によれば、歌枕「忘れ水」の比定地の一つとされる。ここに愛宕社勧進されており、字シメカマイは囲われた注連縄に由来するという。 | | ● | | ● | | |
| | 94 | 湯風呂谷 | — | 余田区の山林内の小字地名。地元の人にもあまり知られていない地名であるが、「湯」がつくことから、掘ると湯がでるとも言われている。 | | | | ● | | |

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・平成 22 年（2010）に余田歴史同好会を組織し、大歳神社の調査や聞き取り調査、絵馬の記録作成などのさまざまな活動を実施してきました。それらの活動の成果をもとに、令和 4 年（2022）1 月に地域史誌『余田の歴史』を編さんしました。
- ・余田祭り保存会を組織し、余田区秋祭りの保護・継承のために屋台太鼓の実技指導を実施しています。
- ・区の伝統文化「浄舞」を次世代へ継承するため、余田大歳神社浄舞保存会を組織し、消防団員が中心になって演舞、締太鼓、篠笛の練習を行っています。子ども会の児童にも浄舞の練習に参加してもらい技術の伝承に取り組んでいます。



『余田の歴史』の編さん